

# 日本精神科医学会 認定栄養士 更新 事例報告書

例

| 認定番号 | 氏名    | 施設名          | 事例区分  |
|------|-------|--------------|-------|
| **** | ○× △□ | 医療法人○○会 △△病院 | ③給食管理 |

## <概要>

ミキサー食及びキザミ食を喫食されている患者において、入院期間が長期になるにつれ体重減少傾向を示す患者が多くみられる。低栄養の原因は摂食嚥下能力の低下・摂食機能低下・認知機能低下・消化吸収能低下など多く存在するが、食事内容や調理行程に関連しては常菜からキザミやミキサーに加工する過程で加水による栄養量が低下することはすでに多くの報告がされている。

当院においても体重減少が確認されている食事形態について、調理行程における原因がないかを調査し、改善策を検討する。

## <事例呈示>

### ・一般食の場合

一般食喫食者では、主食量の少ない患者に低体重が見受けられるが、元々体重が軽い患者が多く入院中に体重減少をきたすことは少ない。ビタミン・ミネラル等の微量栄養素に関しては主食量の少ない患者でも摂取基準を満たすよう、全患者に対して料理に混ぜるサプリメント等を使用し強化しているため不足することはない。

### ・キザミ食の場合

調理加工後の料理をフードプロセッサーでキザミ食に加工する際、加水が必要な料理やキザミ行程でかさが増えてしまう料理があり、見た目の盛り付け量が多くなり残菜が増えている状況であった。この対策として調理行程においてキザミの人数より減らしてフードプロセッサーにかけ盛り付け重量を減らし、かさは増やさないように盛り付けるか、そのままの人数分を刻み盛り付け重量は変わらずかさが増えて盛付残となり廃棄していた。

### ・ミキサー食の場合

キザミ食から人数分に満たない量をミキサーにかけて加工している。その際は、ほとんどの料理は加水するが味付けが薄くならないようミキサー用のたれを準備しミキサーにかけている。

## <原因>

患者の嚥下状態の低下や認知機能の低下による喫食量の低下、さらに消化吸収能力の低下が原因の一つとしてあげられるが、全介助高齢患者において全量摂取しているにもかかわらず体重減少をきたす患者もいる。

### ・キザミ食の場合

キザミ食の場合はかさの増える献立種類は、結果として献立通り食材量是用いていないため提供栄養量が確保出来ていない事が原因の一つであった。

### ・ミキサー食の場合

ミキサー食の場合は、食形態がキザミからミキサーへと低下するに従い加水が多くなり、平行して体重減少をきたす患者が増加している。ミキサーにかけるための加水による水増しが提供栄養量を減少させている大きな原因であり、結果としてエネルギー・タンパク質に関しては献立通りの提供栄養量になっていない事も原因となっていた。

## <改善方法>

### ・キザミ食の改善方法

加水が必要な料理及びキザミ行程でかさの増える料理を献立の中から抽出し、抽出された献立の食材を20%減らした献立に調整し、不足するエネルギーにはマクトンパウダー（MCT）を添加し、不足する蛋白質にはプロテインパウダーを添加し盛り付け量を増やさず栄養量は確保できるように献立変更を行った。

### ・ミキサー食の改善方法

事例文字数 1,845 字

出来上がり栄養量を当院の提供栄養量基準に調整したソフト食献立を別献立として作成し、嚥下の状態に応じソフト食のまま喫食出来る患者にはその形のまま提供した。嚥下状態の悪い患者には、この料理をミキサーにかけてミキサー食を作成することで加水せずにミキサーにかけることが可能となり、栄養量を確保して提供出来るように変更を行った。

#### <結果>

キザミ食献立を喫食している患者では、体重増加に有意差は見られなかったが、体重減少は食い止めることが出来た。

ミキサー食献立を喫食している患者7名の体重変化は、献立改善前後の3か月で $41.6 \pm 4.3\text{kg}$  から  $44.8 \pm 2.9\text{kg}$  ( $p < 0.01$ ) と有意に増加した。

#### <考察>

キザミ食・ミキサー食ともに加水による栄養量の低下及び盛り付け量の減少から、体重減少が起こっていたことが確認された。献立内容の精査及び調理行程のロスを調査し改善することで、低栄養を予防することが出来ると考えられる。

また、新たなソフト食の導入により、見た目にも食事らしくなり喫食量がアップした。さらにミキサー食からソフト食へ変更になった患者も多く、食事として認識出来る事が低栄養の予防に関係していることが考察された。

#### <今後の課題>

今後はさらに嚥下状態に合わせた食形態や摂食行為維持のために、他職種とともに患者 QOL の向上に寄与出来るよう業務を進めていく必要がある。

ミキサー食の別献立の種類が少なく2週間ほどしか作成できていない。今後は基本献立と同じ程度の日数まで増やし、患者 QOL の向上に努めていく必要がある。